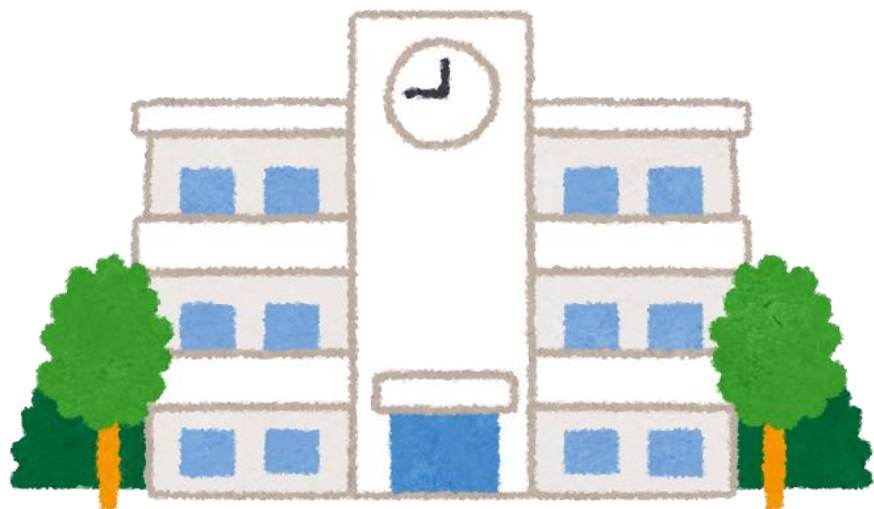


コミュニティ・スクールの の導入について



令和〇年

埼玉県教育局西部教育事務所


学校・家庭・地域の
連携・協働が
求められています。

協働とは

辞書では

同じ目的のために、
対等の立場で
協力して共に働くこと

子供たちに関係する人々で
目標やビジョンを共有するためには
顔をつきあわせて **「協議」** する場が必要

人々の善意  公式な会議体

コミュニティ・スクール

= 学校運営協議会を設置した学校
= 法律（地教行法）に基づく制度

地域とともにある学校

への転換

家庭・地域と学校が
目標やビジョンを共有し、
社会総掛かりで
子供たちを育む

様々な教育課題

コミュニティ・スクール

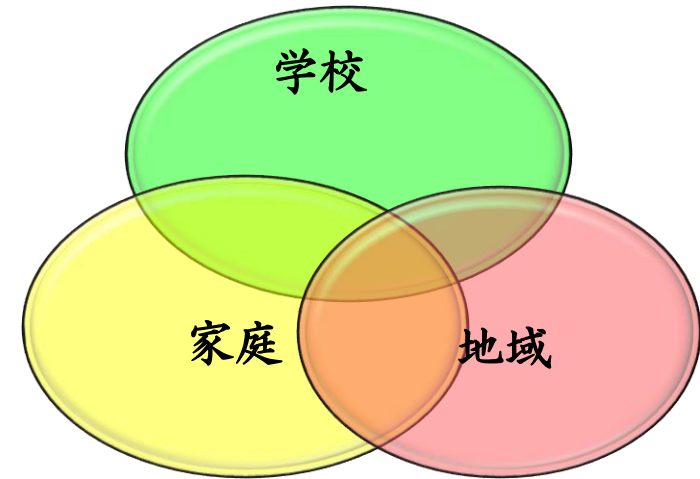
有効な
ツール

地域とともにある学校

何を達成？

学校の教育目標

地域活性化・まちづくり

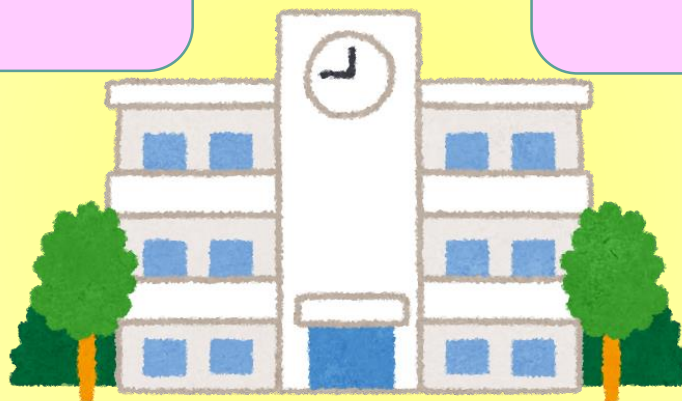


「地域の子供は、地域で育てる」 ⇒ まずは**目指すべき子供像を共有**

子供と大人が互いに
学び合い、ともに
成長していく社会に

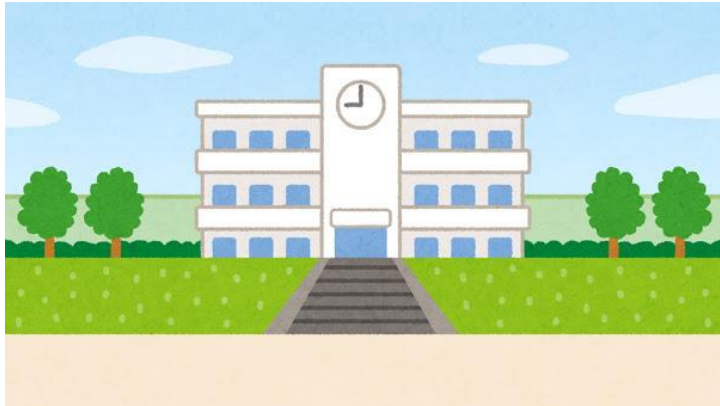


学校・家庭・地域が
連携・協働して子供
を育てていく社会に



これからの学校と家庭・地域の 目指すべき連携・協働の姿

学校



家庭・地域



パートナーとしての
連携・協働関係

共有した目標に向かって、**対等**な立場の下で
共に活動する**協働関係**

相互補完的に連携・協働

学校運営協議会の3つの権限

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針の承認(必須)
- ② 学校運営に対して校長や教育委員会へ意見(任意)
- ③ 教職員の任用に関する意見(任意)

合議体

~~個人の意見を尊重~~

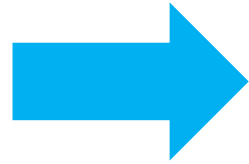
教育委員会の
下部組織

委員は特別職の非常勤公務員

学校教育目標の位置づけ

【導入前】

学校が達成
する目標



【導入後】

学校と**地域**
で達成する目標

熟議（熟慮と議論）とは

学校と家庭・地域の相互理解と 信頼関係を深めるプロセス

1. 多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
2. 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
3. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
4. 解決策が洗練され、
5. 施策が決定される。
6. 個々が納得して自分の役割を果たすようになる

埼玉県教育委員会の方針

- 平成28年度より
「コミュニティ・スクール設置の推進」
- 埼玉県5か年計画の指標（H29～H33）
平成28年4月1日 9校
→平成33年4月1日 **300校（約3割）**
- 第3期埼玉県教育振興基本計画（R1～R5）
平成30年4月1日 281校（全国5位）
→令和5年4月1日 **650校（約6割）**

コミュニティ・スクール指定状況

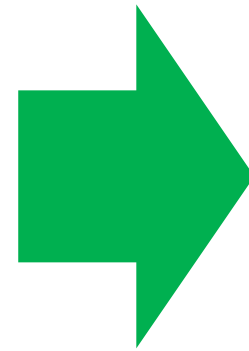
全 国 (令和元年5月現在)

46都道府県内 7,601校

→昨年度から2,169校増加

埼玉県 (平成28年4月現在)

4市 9校



元年5月1日

37市町 446校

(幼1,小306,中135

県立高校3,県立特別支援1)

コミュニティ・スクール導入の効果

① 保護者・地域住民等も子供たちの**教育の当事者**となり、責任感を持って積極的に子供への教育に携わることができるようになります。

- お互いに顔がわかる関係になり、地域住民等が子供に積極的に声をかけたり、直接助言したりする場面が増加します。
- 学校が保護者や地域住民等と一緒に課題等に対応策を考え、実行に移すことができるようになります。
- 小中一貫教育等の新しい教育方法との組み合わせにより、地域ぐるみで効果的に子供を育む体制が構築されます。

コミュニティ・スクール導入の効果

②保護者や地域住民等にとって学校運営や教育活動への参画は、自己有用感や生きがいにつながります。
さらに、**子供たちの学びや体験が充実**します。

- 多くの大人の専門性や地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現し、子供たちに多様な経験を積ませることができます。
- 学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころとなります。
- 地域の特性を生かした学びを目標を共有した上で実施することにより、学校での学びがより豊かで広がりをもちます。

コミュニティ・スクール導入の効果

③保護者や地域住民等と**学校が見える関係**となり、
**保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が
実現**します。

- 学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域住民等が学校の応援団となります。
- 学校・家庭・地域の「適切な役割分担」により、教職員が子供と向き合う時間の確保につながります。

コミュニティ・スクール導入の効果

④地域の課題解決に向けた取り組みや大規模災害時の緊急対応等に、**学校と地域が一体となって取り組むことができます。**

＜熊本県 町立小学校の例＞

- 避難所の運営を地域住民中心で実施
- 避難所に子供のためのキッズスペースを設置
- 学力低下により校長が学校運営協議会で「ボランティアにおいて丸付けだけでなく、『なぜできないか』を子供たちに聞いてもらうこと」を共有。学力が向上。
- 3年生の総合の時間に地域住民と一緒に地震の被害を記録。
- 延べ3000人のボランティアが参加。年に1回ボランティアの集いを行い、子供たちから日頃の感謝の気持ちを伝える。
- 西日本豪雨の際、子供たちから募金の提案があり募金活動を実施。